

# 令和4年度 東京都立羽村高等学校 学校経営報告

令和5年3月31日

校長 菅 勇真

## 1 学習指導

### ア 今年度目標

学び直しによる基礎・基本の定着と上位者を伸ばす指導の学力向上及び教員の指導力向上

### イ 目標達成への具体的方策・取組目標

- (1) 定期考査の前後に学び直しを行う補講・補習を実施する
- (2) 土曜及び長期休業中の講習を実施する
- (3) 生徒の主体的に学ぶ意欲を高めるための、研究授業を全教員が実施する
- (4) 新学習指導要領に対応した観点別評価を行い、指導と評価を一体化した学習指導を行う
- (5) 生徒の学力向上に資するICT機器によるオンライン学習を実施し、同時に生徒の主体性を育成する
- (6) 講師を招いた校内研修を実施する

### ウ 今年度実績

達成度 B

- ・ 新学習指導要領への対応として、1学年において観点別評価を各教科で実施
- ・ 全教員（講師も含めて）がICTを活用した授業を実施
- ・ 校内研修会を年2回（6月・10月）、YSWの取組、生徒指導方針の理解に関する内容として実施
- ・ 英語科において文部科学省教育課程調査官を招聘し、研究協議会・校内研修を2回実施
- ・ 校内寺子屋：延べ26回（昨年32回）参加者70人（昨年176人） 考査前勉強会：571名参加

### エ 成果と課題

- 観点別評価について、教科主任会議を中心として組織的に推進
- 原級留置の生徒が微増 今年度30名（昨年27名）

## 2 進路指導

### ア 今年度目標

進路決定率88.3%（3月16日（木）現在） 進路行事の推進 資格取得生徒の増加

### イ 目標達成への具体的方策・取組目標

- (1) 学校外の学修（就業体験、上級学校での学修及び資格取得）の推進
- (2) 上級学校訪問、チャレンジプログラム等の活用
- (3) 学力基礎診断テスト等の分析
- (4) 自立支援プログラムとの連携による進路指導の充実
- (5) 適切な進路情報の提供
- (6) NPO法人やハローワーク等と連携したキャリア教育の推進
- (7) 公務員試験対策講座や看護医療系学校受験対策講座の実施

### ウ 今年度実績

達成度 B

- ・ 自立支援プログラムとの連携による進路指導の面接 延べ78名
- ・ 3年間を見通した進路指導計画を立案
- ・ 学校外の学修（就業体験3名、上級学校の学習3名、資格取得等（44期生4名）合計10名（昨年度24名）
- ・ NPO法人やハローワーク等と連携した進路講演会の実施 各学年実施 9回
- ・ 公務員0名、看護学校等3名が合格
- ・ 1学年の上級学校訪問に企業見学を取り入れた

### エ 成果と課題

- 東京女子体育大学から観察実習を8名（前期（9月）5名、後期（3月）3名）受け入れ

- 資格、検定等を受験する生徒を増加させること
- 令和5年度入学生の2学年7月で実施するインターンシップの受け入れ先の開拓

### 3 生活指導・安全指導・特別活動

#### ア 今年度目標

挨拶、身だしなみ、遅刻指導の徹底 ルール・マナーの順守 部活動の活性化

#### イ 目標達成への具体的方策・取組目標

##### A 生活指導

- (1) 授業規律 時間を守る、不要物持ち込みや授業妨害厳禁
- (2) いじめを許さない学校、SNSでの誹謗・中傷、不適切な投稿等の監視及び指導
- (3) 「人間と社会」やホームルーム活動等を通じて、お互いの立場を尊重しつつ、違いも理解し、適切に対応できるスキルを養う教育を実践する
- (4) 身だしなみを整える（化粧・装身具装着及び頭髪の色や形の加工はしない）
- (5) 社会の一員としての自覚（あいさつ、礼儀、けじめ、法律や社会のルール、マナー等を守る）
- (6) 学校生活を中心とした生活リズムを確立（部活動や地域活動等への参加や家庭学習の励行）
- (7) Face to Face のコミュニケーションの励行（携帯・スマホへの過度な依存の排除）

##### B 安全指導

- (1) 通学时自転車通学指導を学期1回、3日間連続で実施する。
- (2) 生活安全については、SNSの安全で差別偏見のない活用を授業等に取り入れ学ばせる。
- (3) 防災教育については、地震、火災、水害での災害防止に備える指導を行う。

##### C 特別活動

- (1) 生徒中心の学校行事運営を行うために、生徒のリーダー育成に努め、リーダー研修会を実施する。
- (2) 全教職員は、校務分掌の一環として、担当する特別活動の顧問として生徒の指導支援にあたる。
- (3) 生徒に居場所を確保するための魅力ある学校を作るための方策の一つとして、生徒を部活動に参加させる。そのための指導を積極的に行う。

#### ウ 今年度実績

達成度 B

##### A 生活指導

- ・ 全教員で登校時の身だしなみ等の指導（制服を正しく着用させる指導）を継続して行った。

##### B 安全指導

- ・ PTAと連携して3日間連続での通学时自転車通学指導を年2回実施した。また、敷地内乗車禁止の指導を徹底して行った。

##### C 防災教育

- ・ 地域の関係諸機関（消防署、市役所等）と連携して総合防災訓練を実施した。

#### エ 成果と課題

- 身だしなみ、遅刻、通学上のルール・マナー等に、生徒自身が主体的に取り組む意識を高めること

### 4 体力向上、健康指導

#### ア 今年度目標

統一体力テストの数値向上 感染症対策等の徹底

#### イ 目標達成への具体的方策・取組目標

- (1) 全校体制で東京都統一テストを実施するとともに、生徒の体力と生活習慣の向上に取り組む
- (2) 保健・体育の授業、部活動等において、健康づくり、体力の向上、放課後の活用、外部機関との連携、地域との連携等を推進する
- (3) 感染対策の徹底を図るため、生徒会、委員会、部活動等を活用した広報での周知、講演会・講習会等を企画して知識・理解を深め、学校全体で感染対策の意識向上を図る

## ウ 今年度実績

達成度 B

- ・ 専門家の講師を招いたエンジョイスポーツを年間19回実施し、178名の生徒・教員・保護者が参加
- ・ 持久力を向上させるため、縄跳び、持久走の実施方法等を工夫して計画的に取り組んだ。
- ・ 柔道整復専門学校講師を招き、部活動のマネージャーを対象に年3回の講習を実施。

## エ 成果と課題

○ 新型コロナウイルス感染症防止の徹底を図るため、朝の検温確認や教室の換気と消毒、昼休みに生徒の放送による感染防止への働きかけを実施した（感染クラスターを発生させずに現在に至っている）。

● 生徒会、委員会等が中心となって生徒自身が主体的に取り組む体制づくりを進めること

## 5 人権教育・個に応じた指導、自立支援チームの有効活用

### ア 今年度目標

相互尊重の精神の涵養及び生徒の自立支援 ユニバーサルデザインとインクルーシブ教育の推進

### イ 目標達成への具体的方策・取組目標

- (1) 自立支援担当教員、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、各学年及び分掌担当の教員、Y A、Y S Wで構成される生徒自立支援（S J S）委員の定例会議を時間割内に位置付け、生徒の課題や情報を共有し、各生徒の支援計画を立案、実施する。
- (2) 1、2学年の当初に「学習・心理テスト」を実施し、「全体的な傾向」、「学習面、生活面、心理面の傾向」、「集団として留意する必要がある傾向」、「個別に注視すべき生徒」等の情報について校内で共有し、生徒指導に役立てる。
- (3) 精神面で不安を抱える生徒の支援・指導のための研修会を開催する。
- (4) SNS使用リテラシー、体罰の防止・根絶を年2回、いじめ防止の取組を年3回調査し、早期発見、早期防止を図る。

## ウ 今年度実績

達成度 A

- ・ S J S委員会を年22回（週1回の定例会）実施し、生徒の情報共有を図った
- ・ 1年生のTKテストの分析会を実施し、生徒及びクラスの特徴等について理解を深めた
- ・ 児童相談所や、子ども家庭支援センター等関係諸機関と連携してケース会議を開催し、生徒の支援に役立てた。
- ・ Y S Wを利用した生徒86名、255回（昨年度104名 250回）
- ・ S Cを利用した生徒44人 延べ90回（昨年度98回）
- ・ 専門医派遣事業を活用し、精神科医を招いて研修会を実施した
- ・ 体罰アンケートを年1回、いじめアンケートを年3回（1学年は4回）実施した
- ・ 年間転退学者数 68名（昨年度62名） 退学者数26名（昨年度7名）

## エ 成果と課題

○ 週1回の定例会やケース会議等の開催により教職員間の情報共有を図りながら課題解決に当たった。

● 都の自立支援チーム・児童相談所・子供家庭支援センター、中学校等と連携してきめ細かな対応を行うこと

## 6 地域連携・広報

### ア 今年度目標

地域との相互相恵関係の構築及び本校志望倍率の向上

### イ 目標達成への具体的方策・取組目標

- (1) 学校見学会・説明会年8回、管理職による中学校訪問（近隣地区、青梅線・五日市線全域の中学校をすべて訪問）塾訪問、自立支援の各種団体訪問等、本校の良さをアピールする。
- (2) ホームページの更新を定期的に行い、学校の最新情報を広く提供する。
- (3) 全校生徒、教職員、P T Aによる地域との連携で、羽村まつり等へ参加。

## ウ 今年度実績

達成度 B

- ・ P T Aと連携して花いっぱい運動を実施。
- ・ ホームページを355回（目標は200回）更新し、最新情報（本校の取組・生徒の良さ）を広報。
- ・ 学校見学会286組（昨年489名）、学校説明会232組（昨年457名）が参加。  
（今年度は「組数」でカウント）

## エ 成果と課題

- 生徒の有志による学校紹介を実施し、参加者からのアンケートで好評価を得た。
- 生徒、教職員、保護者、同窓会、地域等が一体となって本校の良さを中学校、塾等に広報していくこと

## 7 組織運営（企画調整会議・委員会・プロジェクトチーム）の整備

### ア 今年度目標

校内組織の再編と分掌内容の見直し

### イ 目標達成への具体的方策・取組目標

- (1) 教務部・生徒部・進路部・総務部員のプロパー教員は各員、一つの学年担当とし、学年の活動に参加、補助し、生徒指導・進路指導に協力する。
- (2) 分掌会議には学年の担当者が出席する。教務部学力向上担当は可能な限り進路部会にも出席する。（特に各学期当初に行う）学年会には各学年担当の分掌プロパーが出席する。
- (1) 副担任は授業のみでなく、担任団との連携を前提とした配置とする。

## ウ 今年度実績

達成度 A

- ・ 西部学校経営支援センター特別指定校2年目として、先進校視察を大阪府立西成高等学校、大阪府立布施北高等学校で実施し、その成果を本校の取組（インターンシップ、生活指導）に還元した。
- ・ 各分掌に副主任を充て、組織の活性化及び運営の向上につなげた。
- ・ 特別指定校のアドバイザーを学校運営連絡協議会委員に依頼し、同協議会において、課題解決に向けた的確な指導・支援を受けた。

## エ 成果と課題

- 特別指定校の指定を受け、P Tを中心に本校の課題を明確にすることができた。
- 明確にした課題を解決するために具体的方策を示すこと

## 8 働き方改革

### ア 今年度目標

校務及び会議の効率化 教職員の負担軽減及びメンタルヘルス

### イ 目標達成への具体的方策・取組目標

- (1) 校務の一極集中を避けるため、校務は原則複数対応とし、相互不干渉の姿勢は取らない。
- (2) 羽村高校を良くする目標の許、話し合い、協力し合い、助け合い、校務に邁進する。

## ウ 今年度実績

達成度 B

- ・ 職員会議はペーパーレス化で実施
- ・ 産業医と連携し、在勤時間が超過している教員と面接

## エ 成果と課題

- 教職員の負担を軽減し、メンタルヘルスを維持する職場環境を構築していくこと

## 次年度以降の課題と対応策

- (1) コロナ禍収束に伴い50分授業を再開するとともに、①遅刻者数の減少、②進路決定率の向上を目指す
- (2) 令和5年度入学生から2年7月にインターンシップを実施するための本格的な準備を推進
- (3) 部活動の活性化（加入率、参加率、実績等の向上を図る）
- (4) 試験前、試験後の補習・補講等学び直しの機会を設定、土曜及び長期休業日の講習等の実施
- (5) S J Sを発展させ、個別支援計画を活用して生徒支援を推進